

「介護福祉士としてのやりがいや誇りについて」結果の概要と総括

2024年1月15日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

介護福祉士の仕事に対するやりがいや誇りとは何かを明確にし、職能団体として介護の魅力をもどのような方で発信するかを検討するための基礎資料とすることを目的に、運営サポーターを対象とする調査を実施しましたのでご報告いたします。

【主な結果の概要】

1. 悩みや葛藤があっても、介護福祉士としての仕事に対してやりがいや誇りを感じている

介護福祉士としての仕事において、人間関係に対する悩みや給料への不満感などのほか、十分な支援ができない環境や、倫理観やよいケアを行うことに対する他の職員等との意識の差など、回答者の大半が何らかの悩みや葛藤を感じている。一方で、利用者の生活の質が改善したときや利用者等の笑顔が見られたとき、チームとしての仕事ができるときなど、回答者の大半が、介護福祉士としての仕事に対するやりがいや誇りを感じている。

2. 介護の仕事に対するやりがいや誇り、好きだという思いが、仕事の継続につながっている

回答者の6割以上が介護の仕事を辞めたいと考えたことがある一方で、回答者の3割以上が辞めたいと考えたことがない、との結果であった。介護の仕事を辞めたいと考えたことがない人は、そのように考えたことがない理由として、介護の仕事に対するやりがい・誇りを持っていること、介護の仕事が好きであることなどを挙げている。

3. 介護の魅力や、介護の魅力発信のための方策は、多種多様である

介護の魅力とは何か、介護の魅力発信について職能団体に望む活動等について、自由記述式で質問をしたところ、ほぼすべての方が回答して下さった。そのため、多種多様な介護の魅力が述べられるとともに、介護の魅力発信のための方策や職能団体に望む活動等について幅広い提案や意見が寄せられた。

回答からは、生活や人生への関わり、介護を通じた日常生活全体の支援による効果、利用者との間に生まれる相互作用など、介護の特徴が様々な角度から魅力となっていることを窺い知ることができる。また、介護の魅力を生かす方策として、発信する媒体や機会、具体的な内容・視点、対象等が挙げられたほか、介護福祉士の専門性の確立・向上に向けた取組などの、魅力を直接的に伝える以外の方策も挙げられていた。

【総括】

- ・ 本調査の目的であった「介護福祉士の仕事に対するやりがいや誇りとは何か」を明確にすることには、十分にはつながらなかったが、一人ひとりが、日々介護福祉士としての仕事にやりがいや誇りをもって向き合っていることが感じられる結果となった。
- ・ 一人ひとりの介護福祉士が感じている介護の魅力の多様さ、また、提案や意見として寄せられた介護の魅力発信のための様々な方策をもとに、日本介護福祉士会として、介護の魅力の発信に向けた一層の工夫や推進を図っていくことが望まれる。